

埼玉県ケアラー支援計画のための ケアラー実態調査結果 (障害者相談支援事業所)

(内容)

1. ケアラーの属性
2. 被介護者の属性
3. ケアの状況
4. ケアの影響
5. ケアラーが抱える悩みと必要な支援
6. その他

ケアラー実態調査の目的・内容及び分析方法

調査目的及び主な調査内容

【調査目的】

・ケアの状況、ケアラーへの影響、困りごと、支援ニーズ等を把握し計画の策定に役立てる。

【主な調査項目】

・ケアラー自身について ・ケアの状況について ・ケアの影響について ・ケアに関する相談について
・求める支援について など

【調査区域】

・埼玉県全域

【調査対象】

・障害者相談支援事業所を利用している介護者（ケアラー）。1か所につき3人。
・障害者相談支援事業所441か所×3人 = 1,323人

【回答者数】

・448人（回収率：33.9%）

分析方法

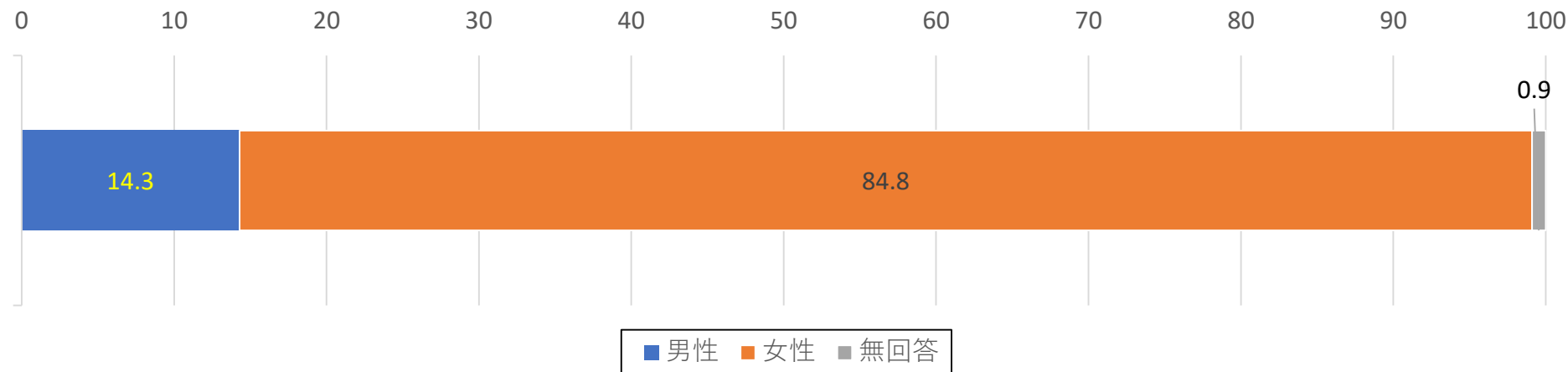
- 調査票各設問の単純集計及びクロス集計を行い、実態調査結果に関する詳細な分析を行った。
- クロス集計は、被介護者の情報が確認できたデータを用いて行った。
- 設問の内、ケアラーがケアする被介護者に関する事項に関する設問を集計する際は、被介護者（530人）毎に集計を行った。

1.ケアラーの属性

1-1 ケアラーの性別

- ケアラー本人（N=448）の性別の構成割合をみると、「男性」（N=64）14.3%、「女性」（N=380）84.8%、「無回答」（N=4）0.9%であった。

図表1-1. ケアラーの性別の割合



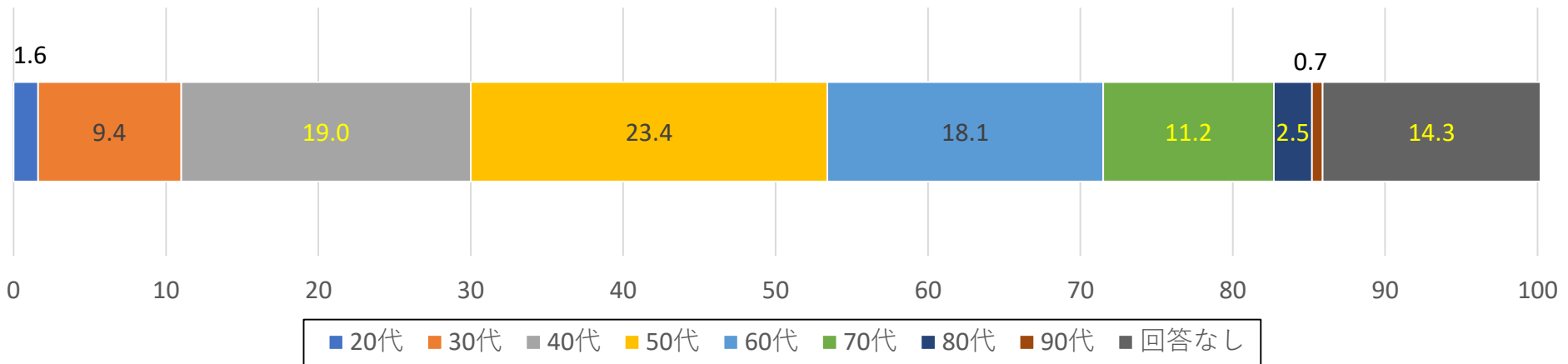
	男性	女性	その他	無回答
ケアラー総数 (N=448)	64	380	0	4
割合 (%)	14.3	84.8	0.0	0.9

注) 本集計はケアラー本人（448人）に対して行われている。

1-2 ケアラーの年齢

- ケアラー（N=448）の年齢の構成割合をみると、「50代」（N=105）が23.4%で最も高く、次いで「40代」（N=85）が19.0%、「60代」（N=81）が18.1%の順であった。（平均：55.3歳）

図表1-2. ケアラーの年齢の割合



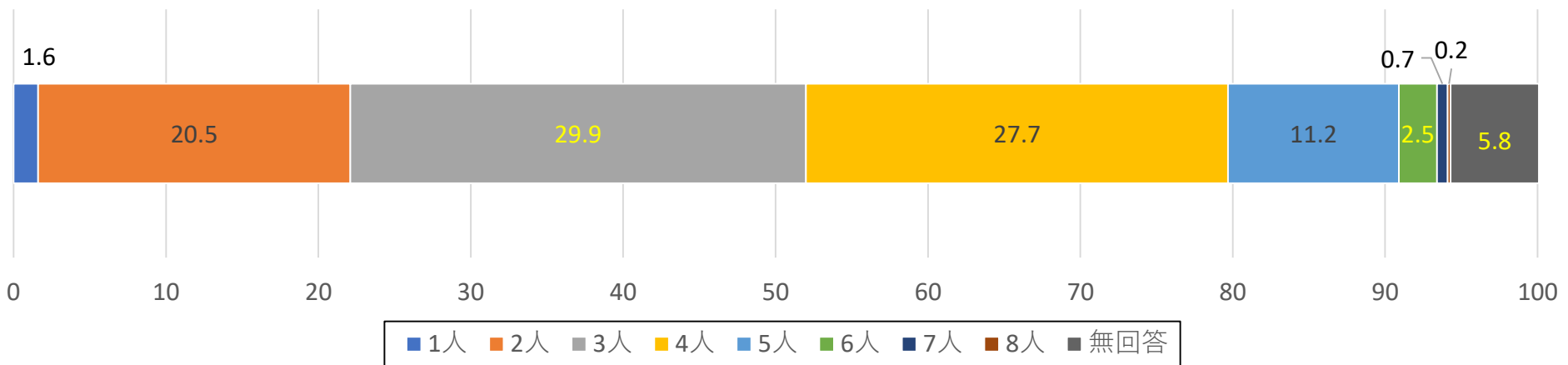
	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	回答なし
ケアラー総数 (N=448)	7	42	85	105	81	50	11	3	64
割合 (%)	1.6	9.4	19.0	23.4	18.1	11.2	2.5	0.7	14.3

注) 本集計はケアラー本人（448人）に対して行われている。

1-3 ケアラーの同居家族

●ケアラー（N=448）の同居人数（自身を含む）の構成割合をみると、「3人」（N=134）が29.9%で最も高く、次いで「4人」（N=124）が27.7%、「2人」（N=92）が20.5%の順であった。

図表1-3. ケアラーの同居人数の割合



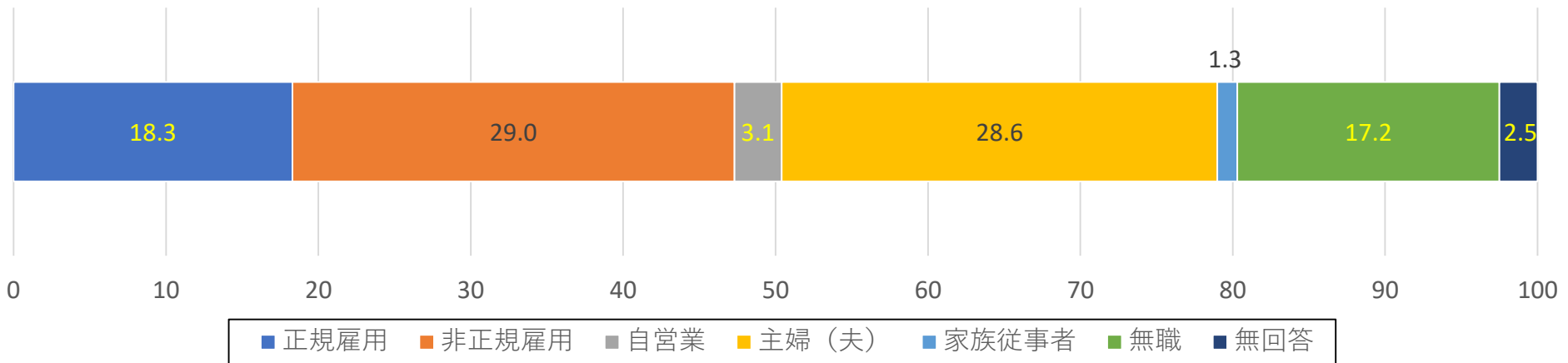
	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	回答なし
ケアラー総数 (N=448)	7	92	134	124	50	11	3	1	26
割合 (%)	1.6	20.5	29.9	27.7	11.2	2.5	0.7	0.2	5.8

注) 本集計はケアラー本人（448人）に対して行われている。

1-4 ケアラーの就労状況等

- ケアラー（N=448）の就労状況等の構成割合をみると、「非正規雇用」（N=130）が29.0%で最も高く、次いで「主婦（夫）」（N=128）が28.6%、「正規雇用」（N=82）が18.3%の順であった。

図表1-4. ケアラーの就労状況等の割合



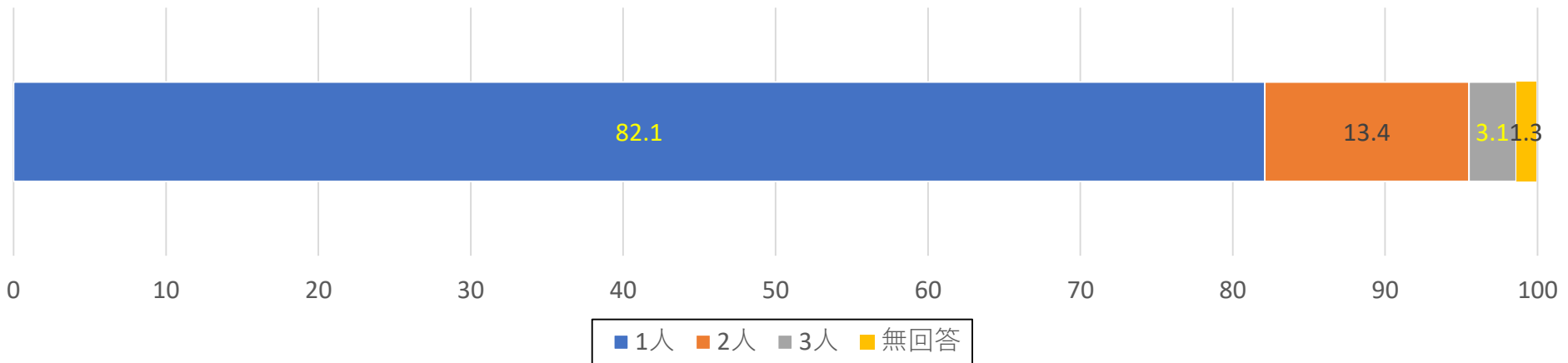
	正規雇用	非正規雇用	自営業	主婦(夫)	家族従業者	無職	回答なし
ケアラー総数 (N=448)	82	130	14	128	6	77	11
割合 (%)	18.3	29.0	3.1	28.6	1.3	17.2	2.5

注) 本集計はケアラー本人（448人）に対して行われている。

1 - 5 ケアラーがケアしている人数

- ケアラー（N=448）のケアしている人数（被介護者人数）の構成割合をみると、「1人」（N=368）が82.1%で最も高く、次いで「2人」（N=60）が13.4%、「3人」（N=14）が3.1%の順であった。

図表1-5. ケアラーのケアしている人数の割合



	1人	2人	3人	回答なし
ケアラー総数 (N=448)	368	60	14	6
割合 (%)	82.1	13.4	3.1	1.3

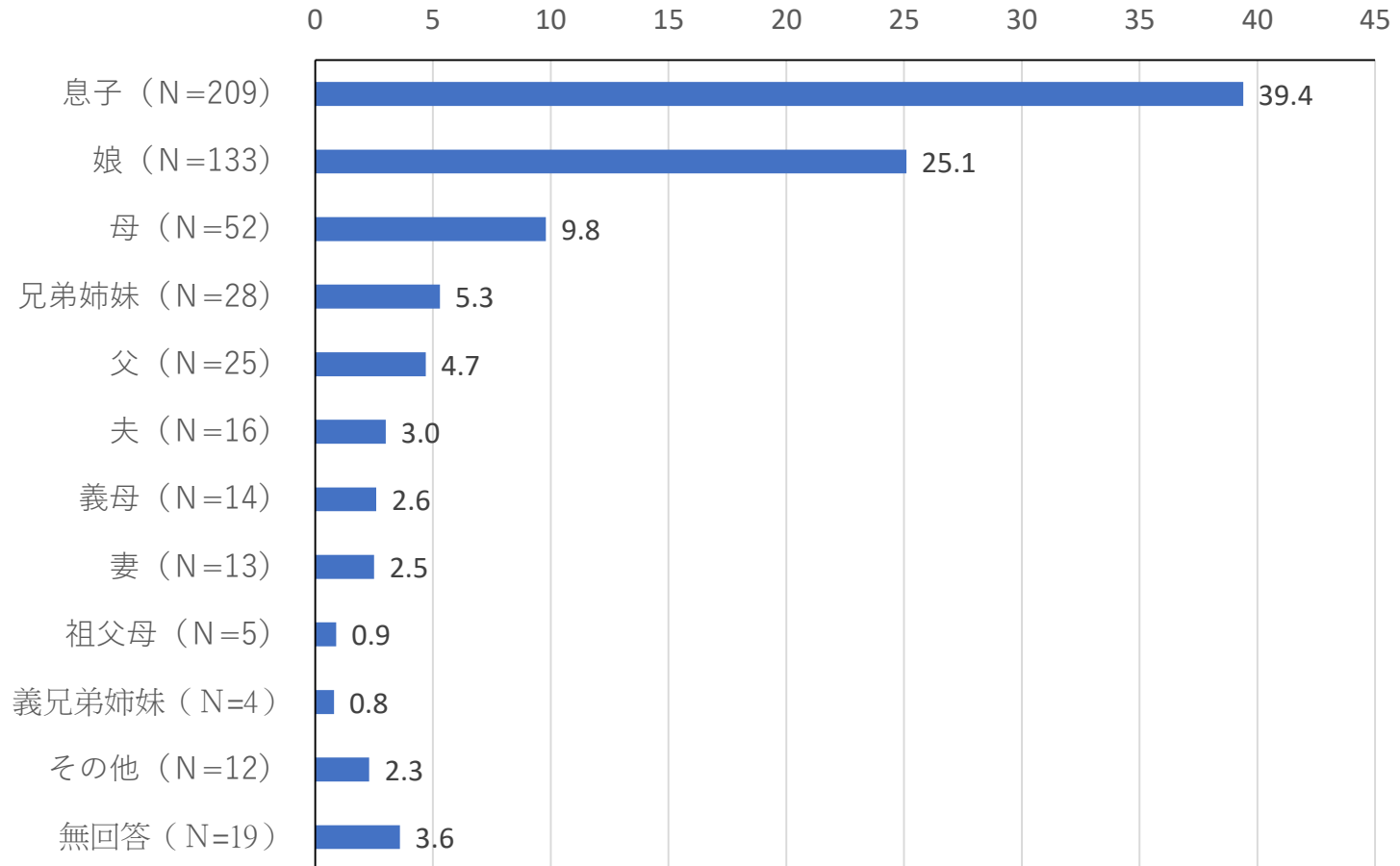
注) 本集計はケアラー本人 (448人) に対して行われている。

2.被介護者の属性

2-1 被介護者のケアラーとの続柄

- 被介護者（N=530）のケアラーとの続柄の構成割合をみると、「息子」（N=209）が39.7%で最も高く、次いで「娘」（N=133）が25.1%、「母」（N=52）が9.8%、「兄弟姉妹」（N=28）が5.3%の順であった。

図表2-1. 被介護者のケアラーとの続柄の割合

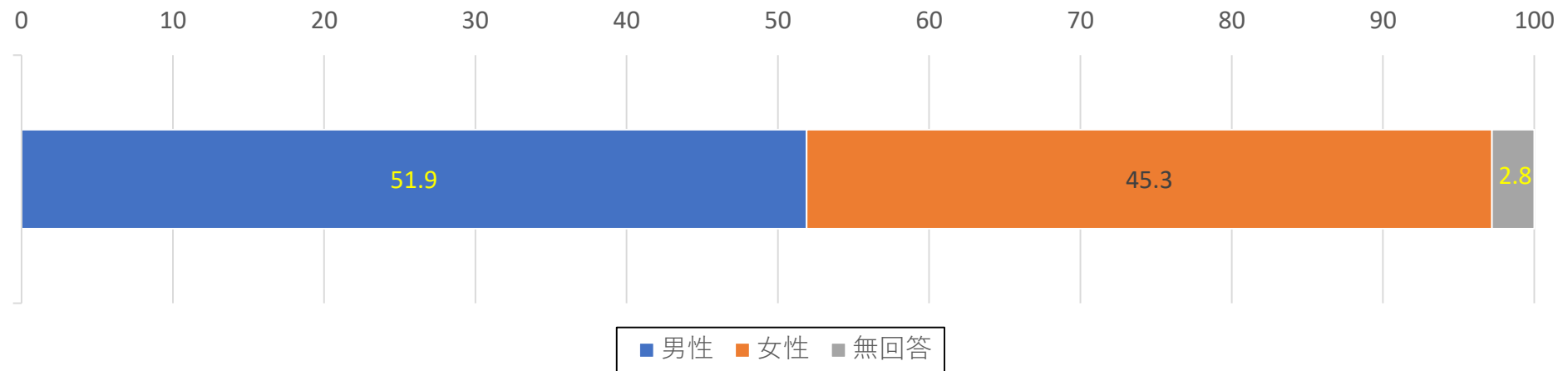


注) 本集計は被介護者数 (530人) に対して行われている。

2-2 被介護者の性別

- 被介護者（N=530）の性別の構成割合をみると、「男性」（N=275）51.9%、「女性」（N=240）45.3%、「無回答」（N=15）2.8%であった。

図表2-2. 被介護者の性別の割合



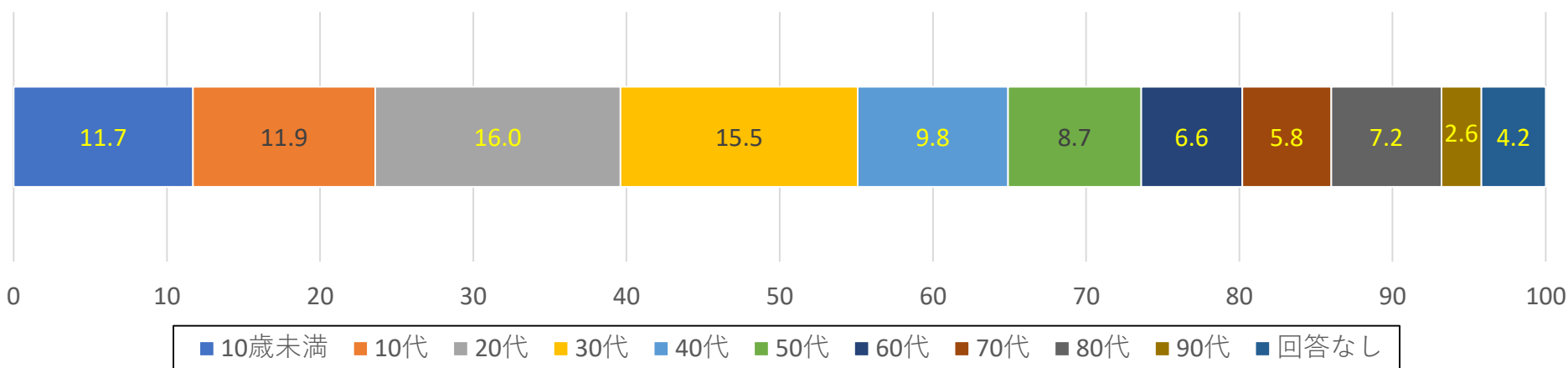
	男性	女性	無回答
被介護者数 (N=530)	275	240	15
割合 (%)	51.9	45.3	2.8

注) 本集計は被介護者（530人）に対して行われている。

2-3 被介護者の年齢

- 被介護者（N=530）の年齢の構成割合をみると、「20代」（N=85）が16.0%で最も高く、次いで「30代」（N=82）が15.5%、「10代」（N=63）が11.9%の順であった。

図表2-3. 被介護者の年齢の割合



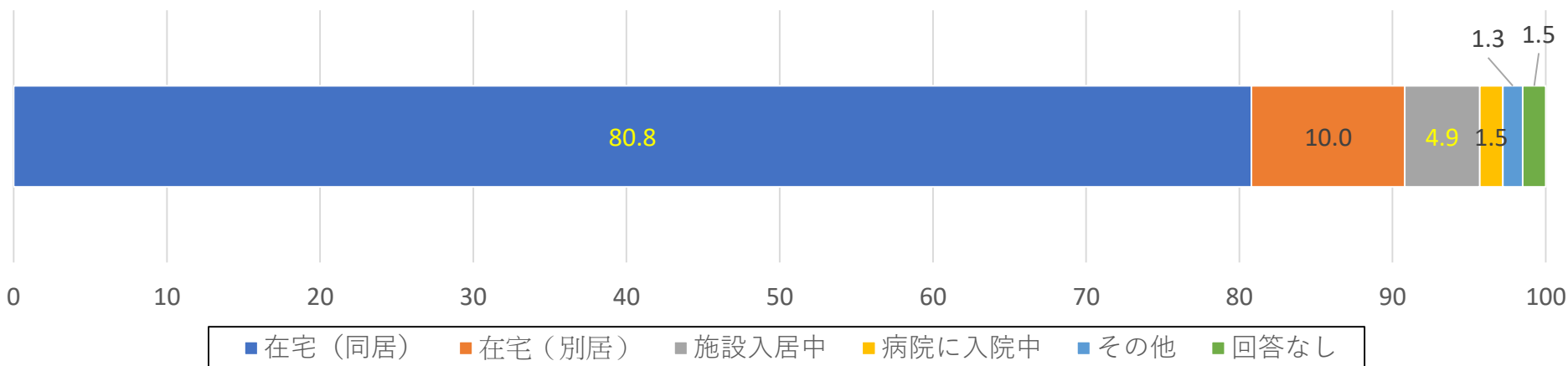
	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	回答なし
被介護者数 (N=530)	62	63	85	82	52	46	35	31	38	14	22
割合 (%)	11.7	11.9	16.0	15.5	9.8	8.7	6.6	5.8	7.2	2.6	4.2

注) 本集計は被介護者（530人）に対して行われている。

2-4 被介護者の生活場所

- 被介護者（N=530）の生活場所の構成割合をみると、「在宅（同居）」（N=428）が80.8%で最も高く、次いで「在宅（別居）」（N=53）が10.0%、「施設入居中」（N=26）が4.9%の順であった。

図表2-4. 被介護者の生活場所の割合



	在宅（同居）	在宅（別居）	施設入居中	病院に入院中	その他	回答なし
被介護者数 (N=530)	428	53	26	8	7	8
割合 (%)	80.8	10.0	4.9	1.5	1.3	1.5

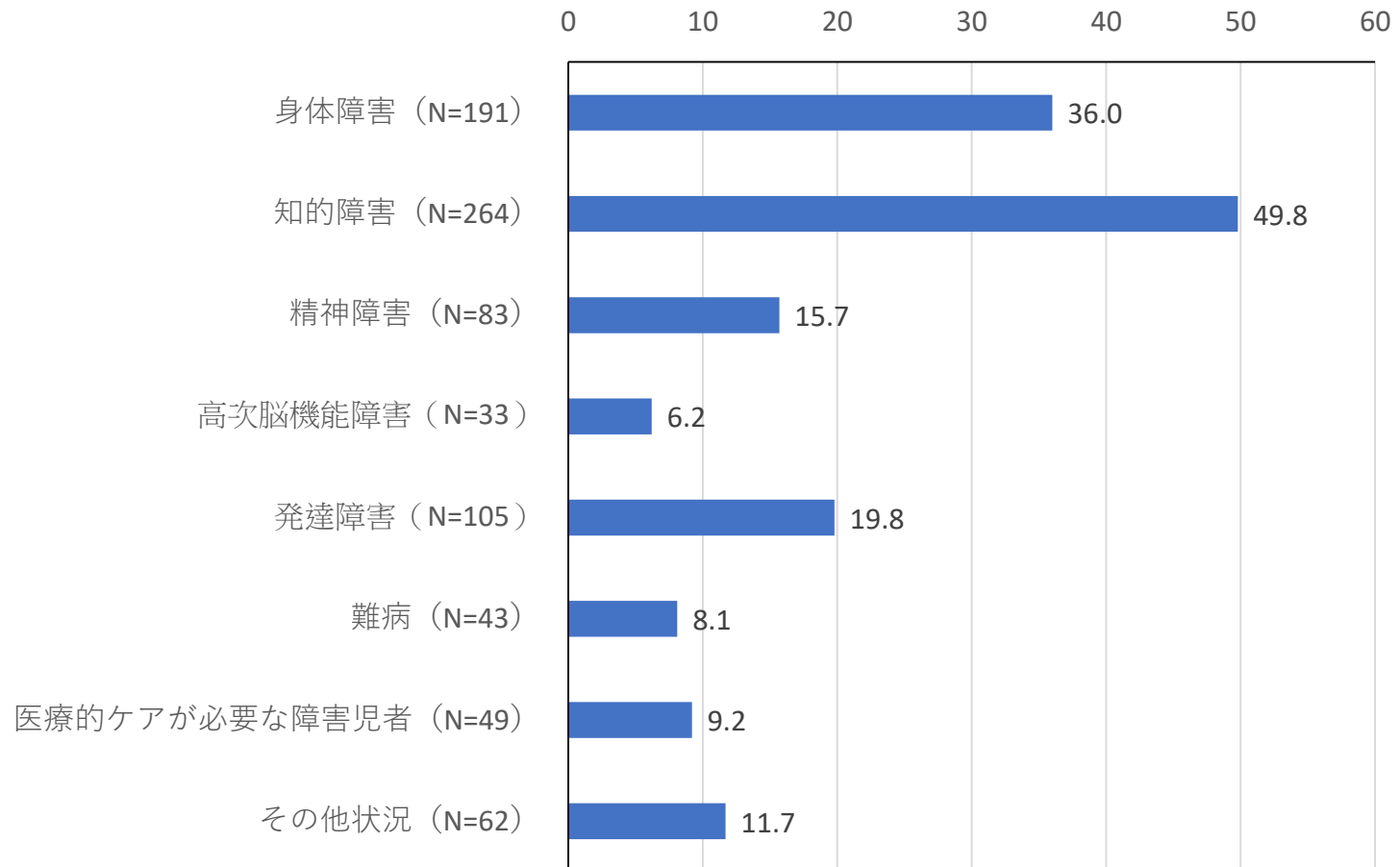
注) 本集計は被介護者（530人）に対して行われている。

2-5 被介護者の状況

- 被介護者の状況（N=530）をみると、「知的障害」（N=264）が49.8%で最も高く、次いで「身体障害」（N=191）が36.0%、「発達障害」（N=105）が19.8%、「精神障害」（N=83）が15.7%の順であった。

図表2-5. 被介護者の状況（複数回答）

単位：%



注) 本集計は被介護者（530人）に対して行われている。

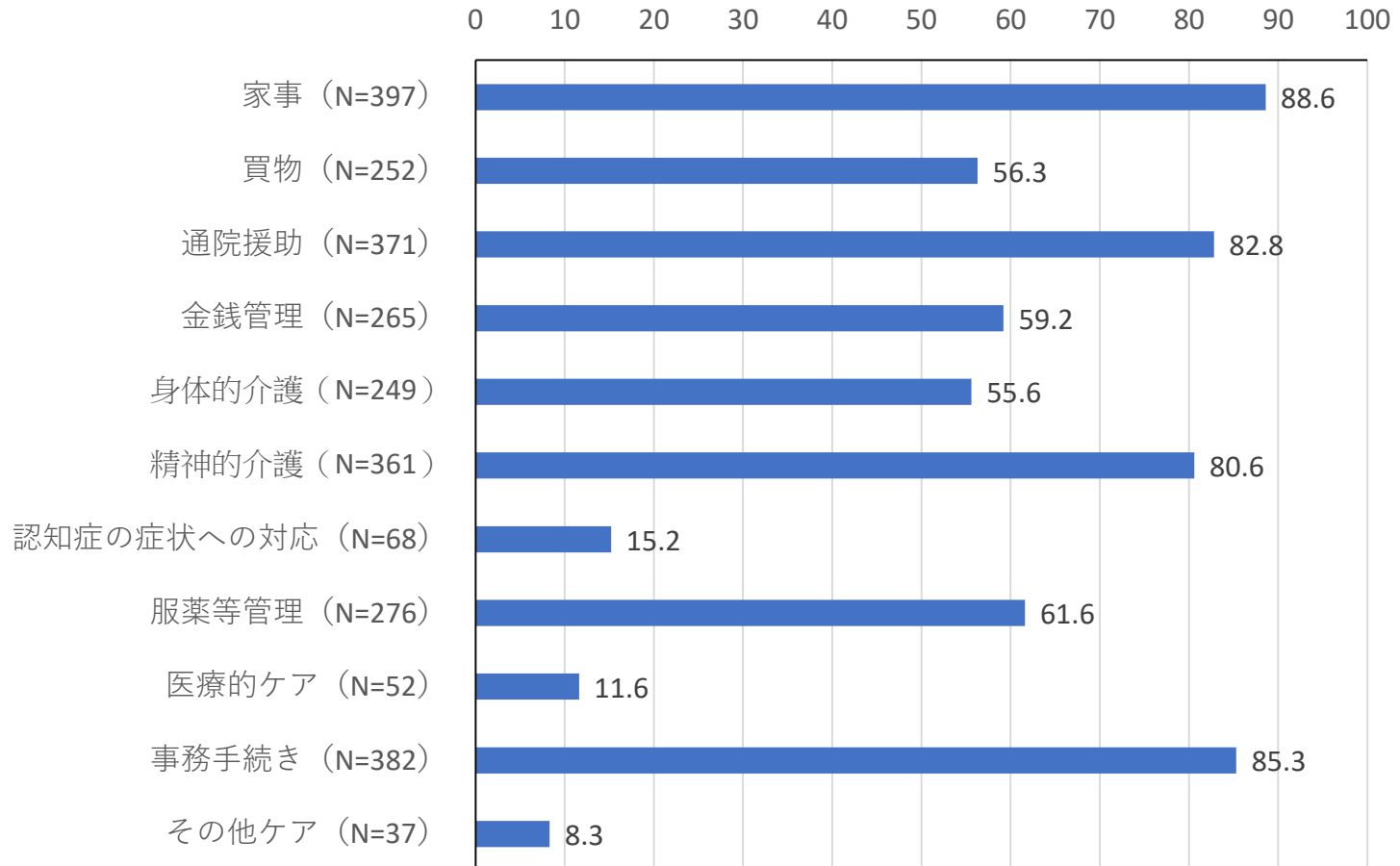
3.ケアの状況

3-1 ケアの内容

- ケアラーから見たのケアの内容（N=448）をみると、「家事」（N=397）が88.6%で最も高く、次いで「事務手続き」（N=382）が85.3%、「通院援助」（N=371）が82.8%、「精神的介護」（N=361）が80.6%の順であった。

図表3-1. ケアの内容（複数回答）

単位：%



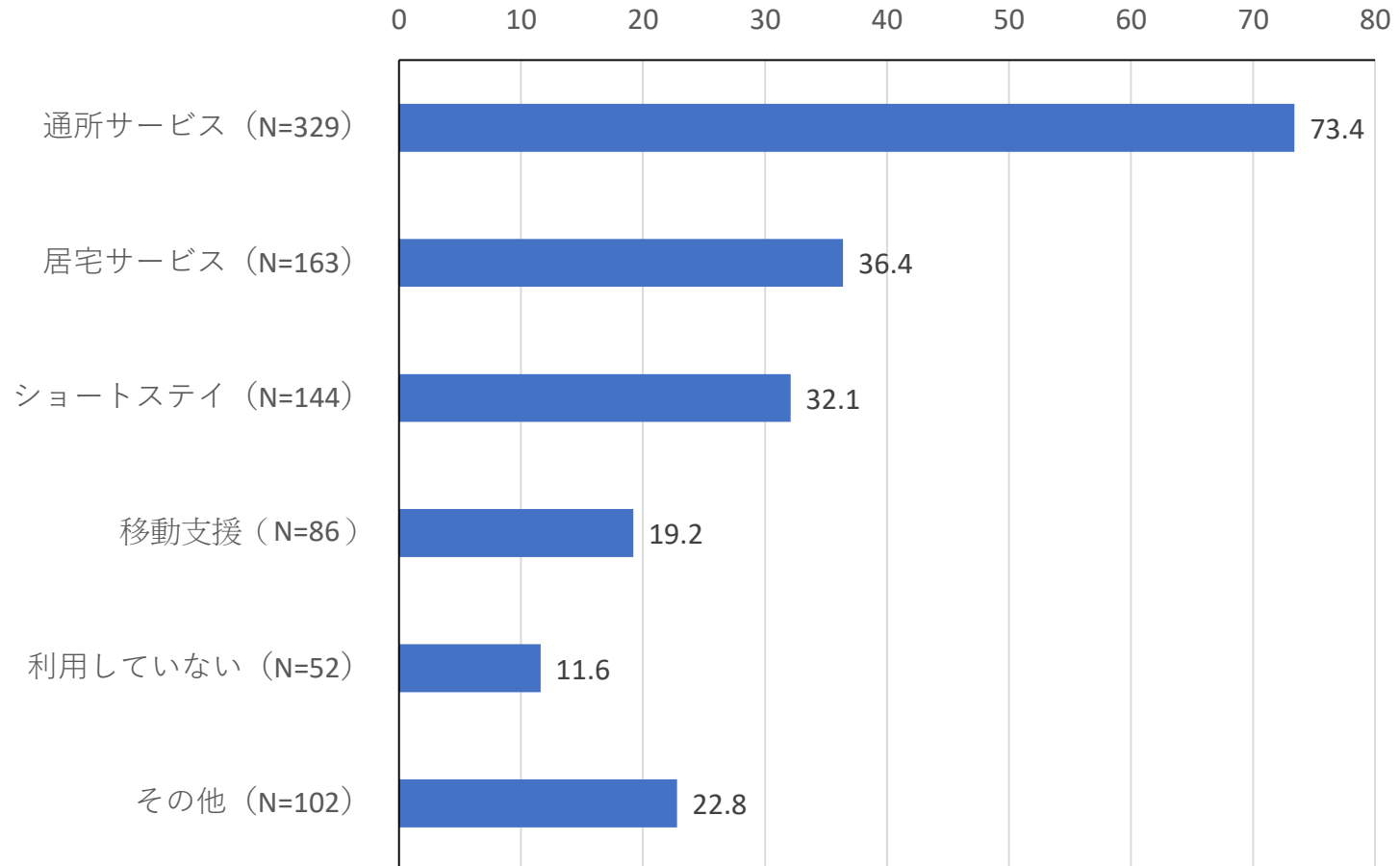
注) 本集計はケアラー本人（448人）に対して行われている。

3-2 利用しているサービス

- 利用しているサービス（N=448）をみると、「通所サービス」（N=329）が73.4%で最も高く、次いで「居宅サービス」（N=163）が36.4%、「ショートステイ」（N=144）が32.1%の順であった。

図表3-2. 利用しているサービス（複数回答）

単位：%

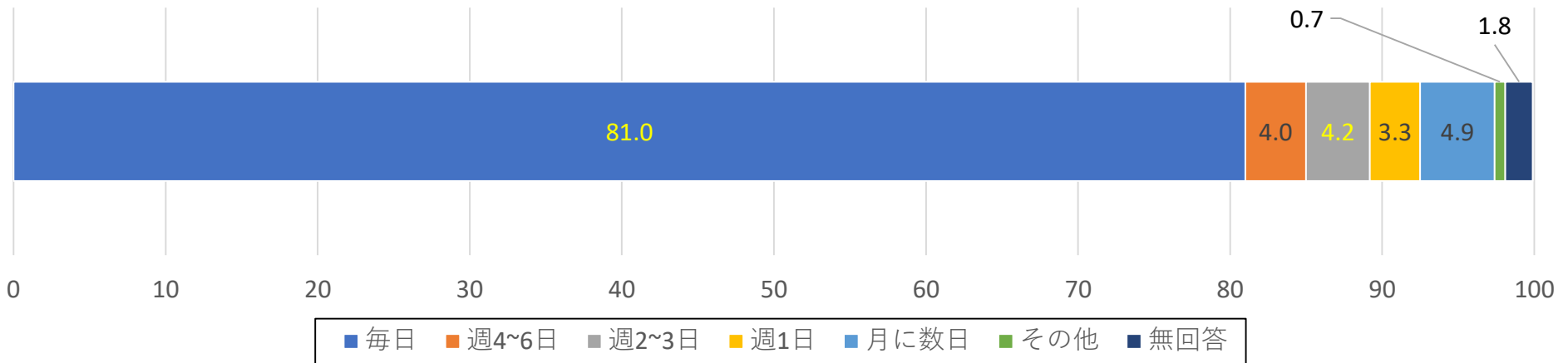


注) 本集計はケアラー本人（448人）に対して行われている。

3-3 ケアラーのケアの頻度

- ケアラー（N=448）のケアの頻度をみると、「毎日」（N=363）が81.0%で最も高く、次いで「月に数日」（N=22）が4.9%、「週2~3日」（N=19）が4.2%の順であった。

図表3-3. ケアの頻度の割合



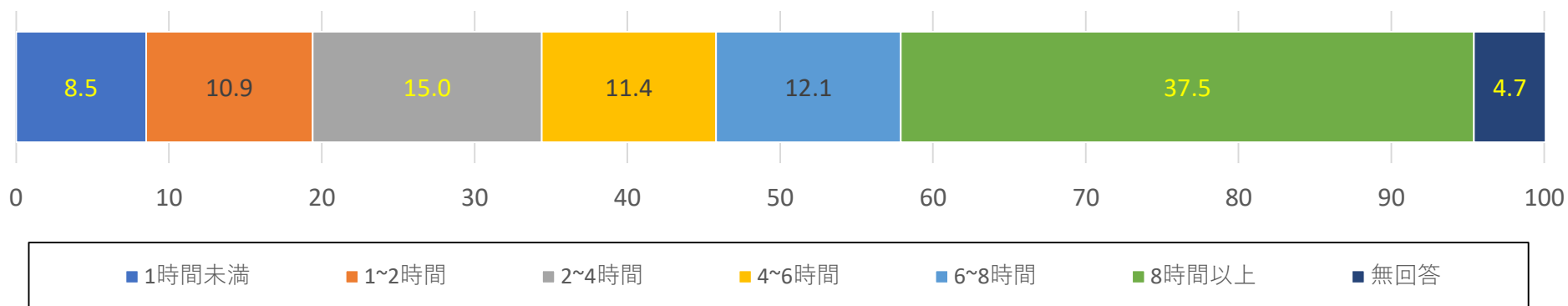
	毎日	週4~6日	週2~3日	週1日	月に数日	その他	無回答
ケアラー総数 (N=448)	363	18	19	15	22	3	8
割合 (%)	81.0	4.0	4.2	3.3	4.9	0.7	1.8

注) 本集計はケアラー本人（448人）に対して行われている。

3-4 ケアにかかる時間

- ケアにかかる時間（N=448）の構成割合をみると、「8時間以上」（N=168）が37.5%で最も高く、次いで「2時間以上4時間未満」（N=67）が15.0%、「6時間以上8時間未満」（N=54）が12.1%であった。

図表3-4. ケアにかかる時間の割合



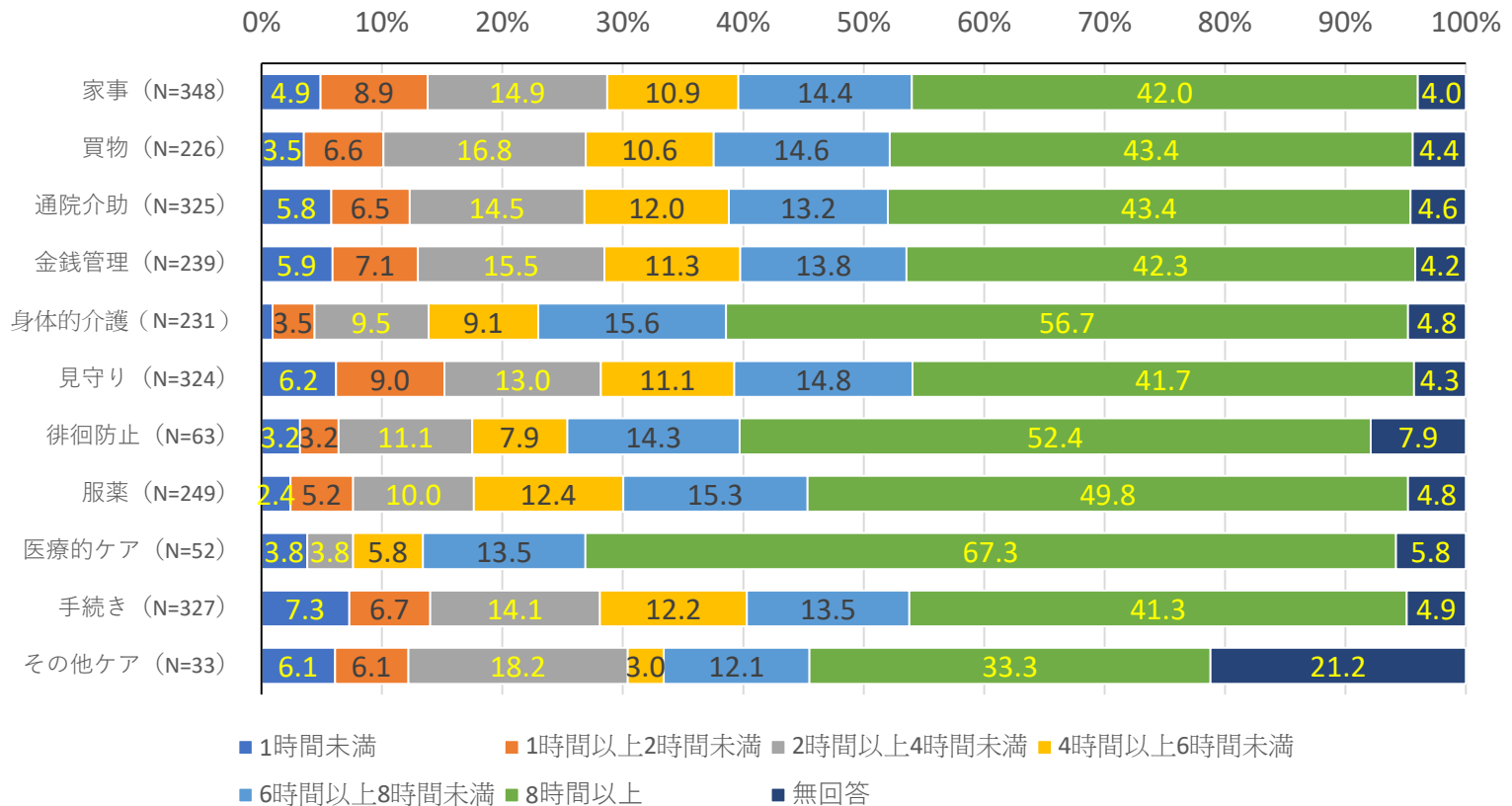
	1時間未満	1時間以上 2時間未満	2時間以上 4時間未満	4時間以上 6時間未満	6時間以上 8時間未満	8時間以上	無回答
ケアラー総数 (N=448)	38	49	67	51	54	168	21
割合 (%)	8.5	10.9	15.0	11.4	12.1	37.5	4.7

注) 本集計はケアラー本人（448人）に対して行われている。

3-4-1 ケアの内容別にみたケアにかかる時間

- ケアの内容別にケアにかかる時間をみると、「身体的介護」、「徘徊防止」、「医療的ケア」では「8時間以上」と回答した割合が4割を超えていた。「6時間以上」と回答している割合は、「医療的ケア」、「身体的介護」、「徘徊防止」の順に高かった。

図表3-4-1. ケアの内容別にみたケアにかかる時間

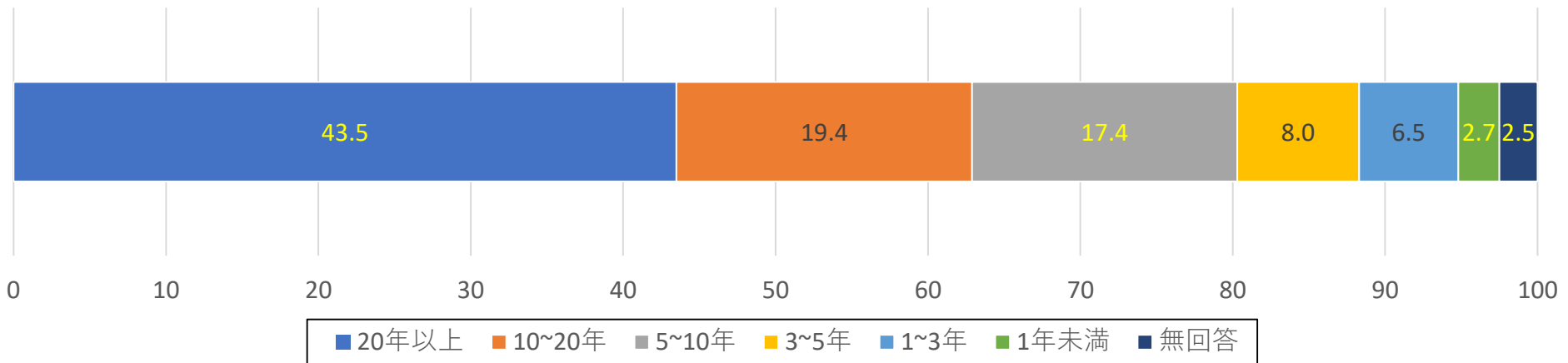


注) 本集計はケアラー本人 (448人) に対して行われている。

3-5 ケアの期間

- ケアの期間（N=448）の構成割合をみると、「20年以上」（N=195）が43.5%で最も高く、次いで「10～20年」（N=87）が19.4%、「5～10年」（N=78）が17.4%の順であった。

図表3-5. ケアの期間の割合



	20年以上	10～20年	5～10年	3～5年	1～3年	1年未満	無回答
ケアラー総数 (N=448)	195	87	78	36	29	12	11
割合 (%)	43.5	19.4	17.4	8.0	6.5	2.7	2.5

注) 本集計はケアラー本人（448人）に対して行われている。

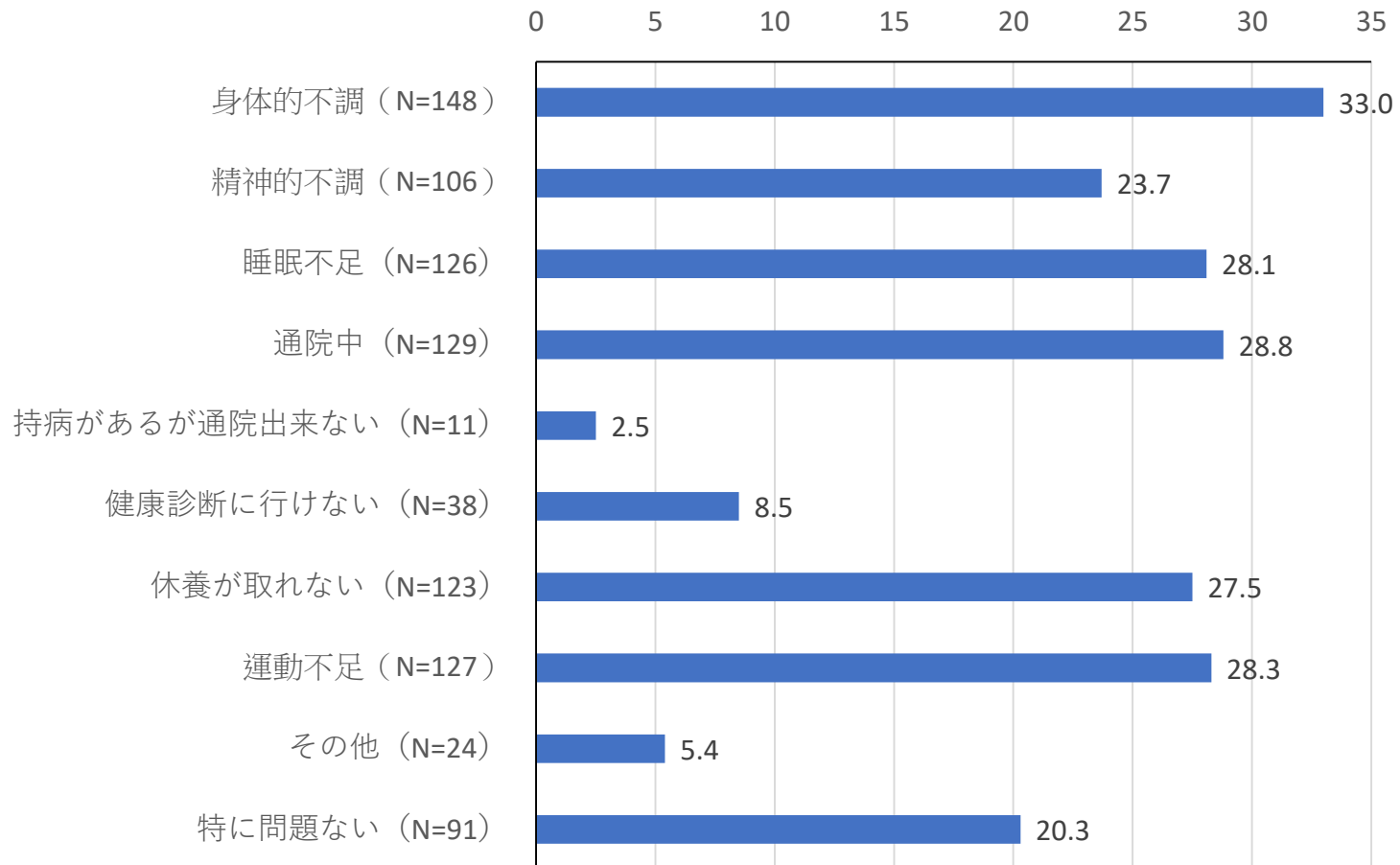
4. ケアの影響

4-1 ケアラー本人の健康状態

- ケアラー本人の健康状態（N=448）をみると、「身体的不調」（N=148）が33.0%で最も高く、次いで「通院中」（N=129）が28.8%、「運動不足」（N=127）が28.3%、「睡眠不足」（N=126）が28.1%の順であった。

図表4-1.ケアラー本人の健康状態（複数回答）

単位：%



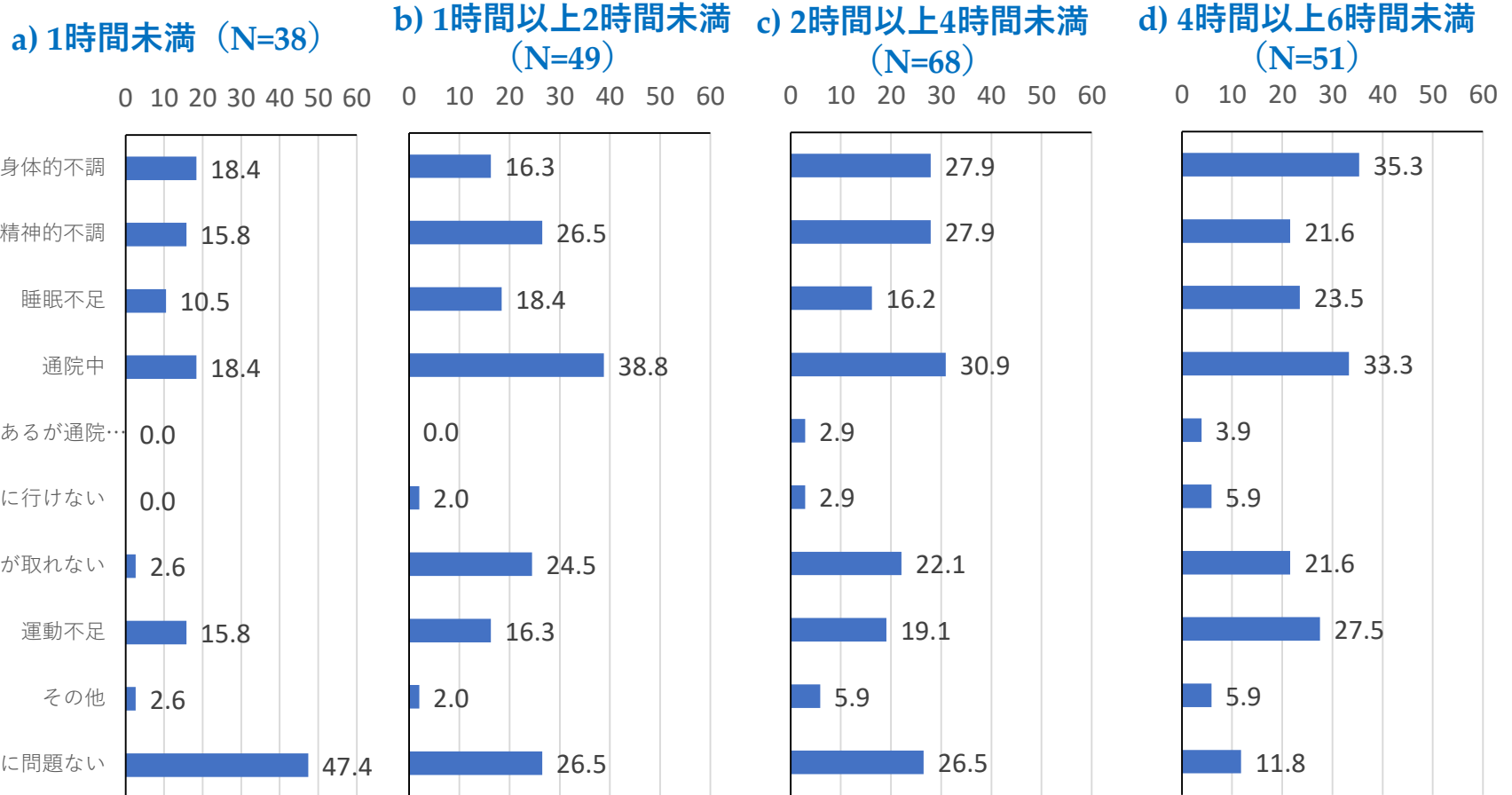
注）本集計はケアラー本人（448人）に対して行われている。

4-1-1 ケアにかける時間別にみた健康状態

● ケアにかける時間別に健康状態をみると、「4時間以上6時間未満」、「6時間以上8時間未満」、「無回答」で「身体的不調」と答えたものが、最も多かった。「一時間未満」は「特に問題ない」が、「一時間以上2時間未満」、「2時間以上4時間未満」では「通院中」が、「8時間以上」では「嗣明不足」と回答したものが最も多かった。

図表4-1-1.ケアにかける時間別にみた健康状態

単位：%



注) 本集計はケアラー本人 (448人) に対して行われている。

4-1-1 ケアにかける時間別にみた健康状態

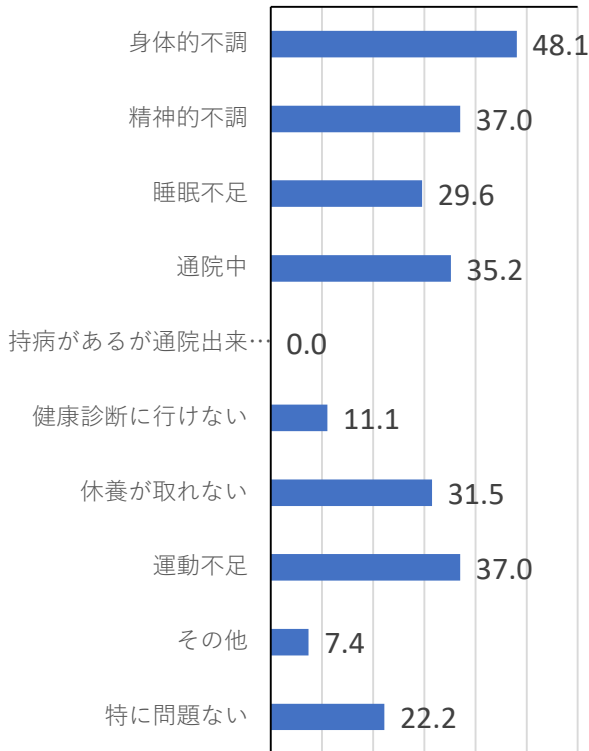
● ケアにかける時間別に健康状態をみると、「4時間以上6時間未満」、「6時間以上8時間未満」、「無回答」で「身体的不調」と答えたものが、最も多かった。「一時間未満」は「特に問題ない」が、「一時間以上2時間未満」、「2時間以上4時間未満」では「通院中」が、「8時間以上」では「嗣明不足」と回答したものが最も多かった。

図表4-1-1.ケアにかける時間別にみた健康状態

単位：%

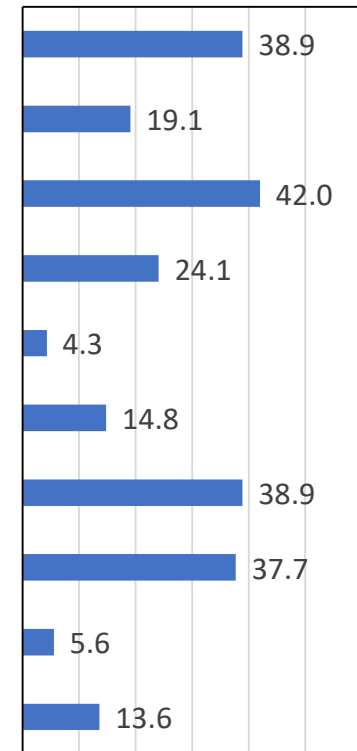
e) 6時間以上8時間未満 (N=54)

0 10 20 30 40 50 60



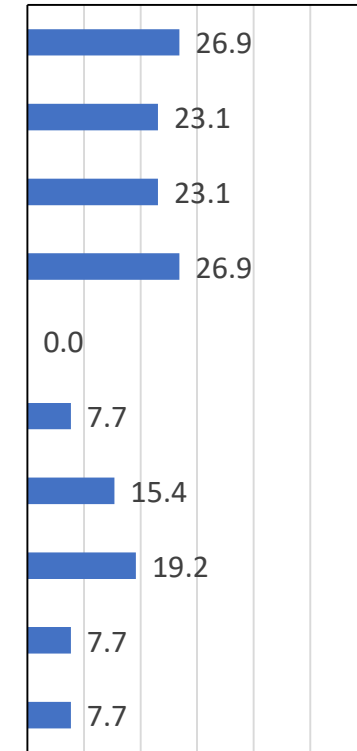
f) 8時間以上 (N=162)

0 10 20 30 40 50 60



g) 無回答 (N=26)

0 10 20 30 40 50 60

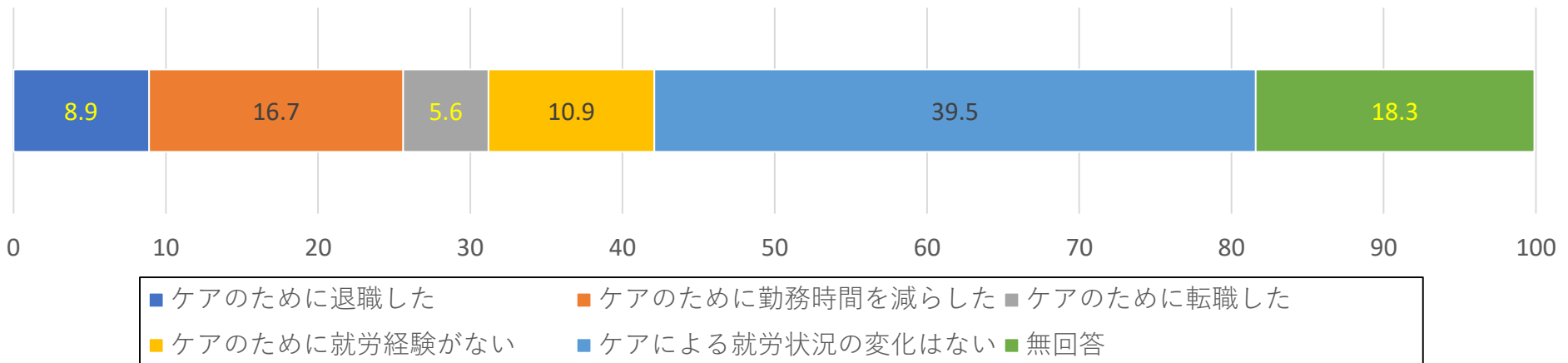


注) 本集計はケアラー本人(448人)に対して行われている。

4-2 ケアによる就労状況の変化

- ケアによる就労状況の変化（N=448）の構成割合をみると、「ケアによる就労状況の変化はない」（N=177）が39.5%で最も高く、次いで「無回答」（N=82）が18.3%、「ケアのために勤務時間を減らした」（N=75）が16.7%、「ケアのために就労経験がない」（N=49）が10.9%の順であった。

図表4-2. ケアによる就労状況の変化の割合



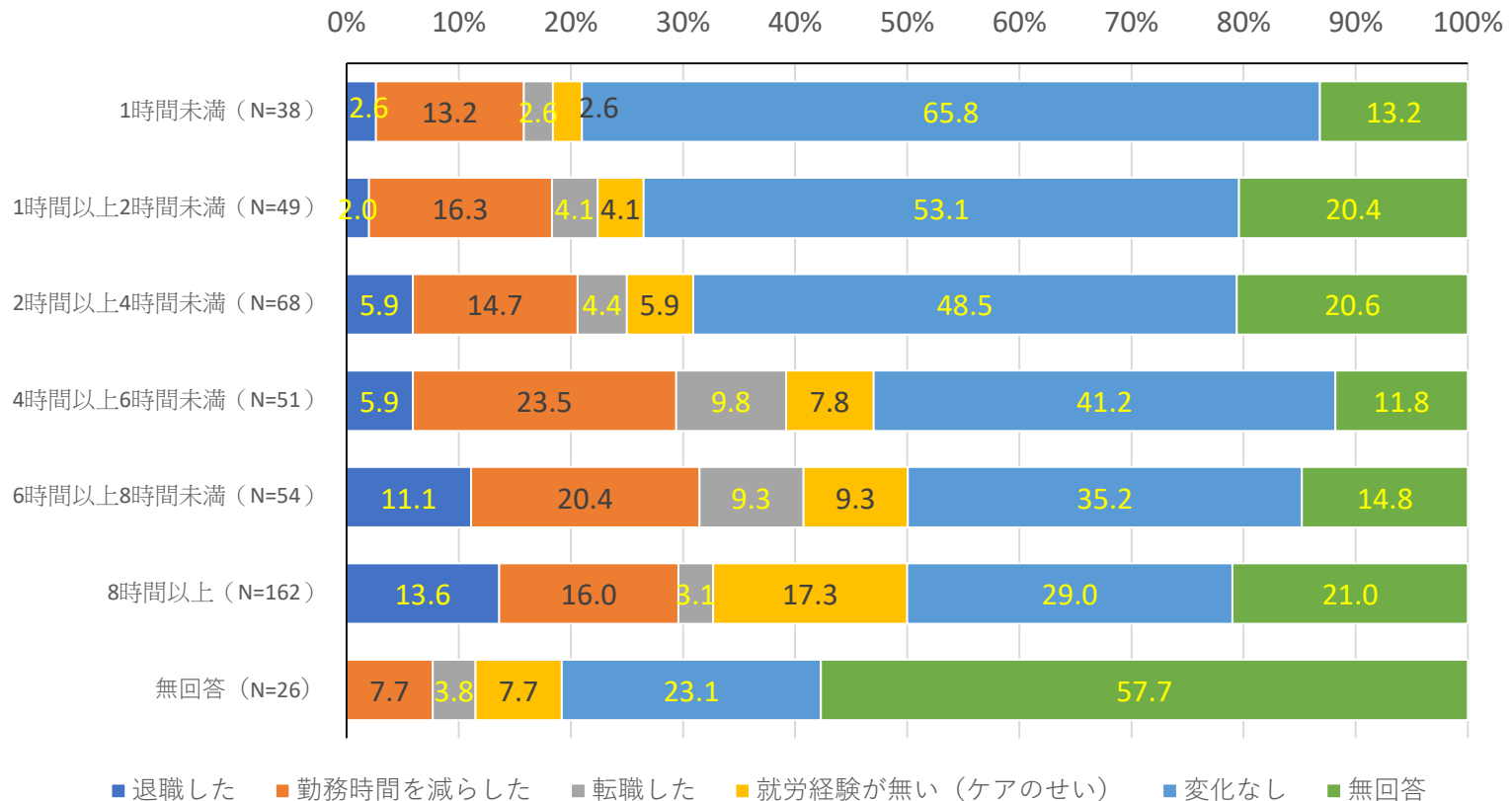
	ケアのために退職した	ケアのために勤務時間を減らした	ケアのために転職した	ケアのために就労経験がない	ケアによる就労状況の変化はない	無回答
ケアラー総数 (N=448)	40	75	25	49	177	82
割合 (%)	8.9	16.7	5.6	10.9	39.5	18.3

注) 本集計はケアラー本人（448人）に対して行われている。

4-2-1 ケアにかかる時間別にみたケアによる就労状況の変化

● ケアにかかる時間別にケアによる就労状況の変化をみると、「ケアのために就労状況に変化があった」と回答したものは、「6時間以上8時間未満」、「8時間以上」、「4時間以上6時間未満」の順に多かった。「8時間以上」の区分では、他の区分と比べると「退職した」と回答したものが多く、「4時間以上6時間未満」の区分では「勤務時間を減らした」と回答したものが他の区分と比べて多かった。

図表4-2-1. ケアにかかる時間別にみたケアによる就労状況の変化



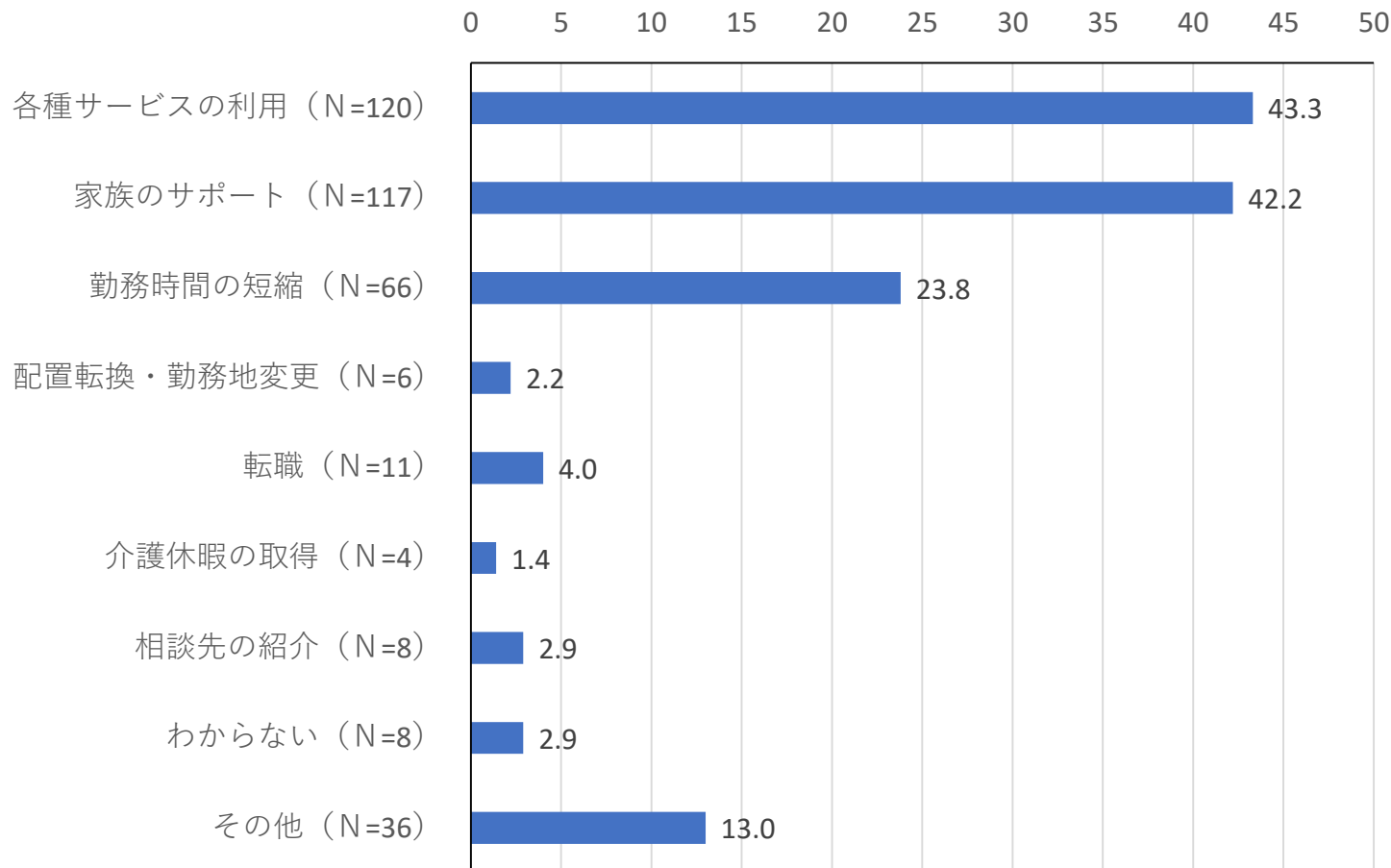
注) 本集計はケアラー本人 (448人) に対して行われている。

4-3 就労を続けられている理由

- 就労を続けられている理由（N=277）の構成割合をみると、「各種サービスの利用」（N=120）が43.3%で最も高く、次いで「家族のサポート」（N=117）が42.2%、「勤務時間の短縮」（N=66）が23.8%、「その他」（N=36）が13.0%の順であった。

図表4-3. 就労を続けられている理由（複数回答）

単位：%



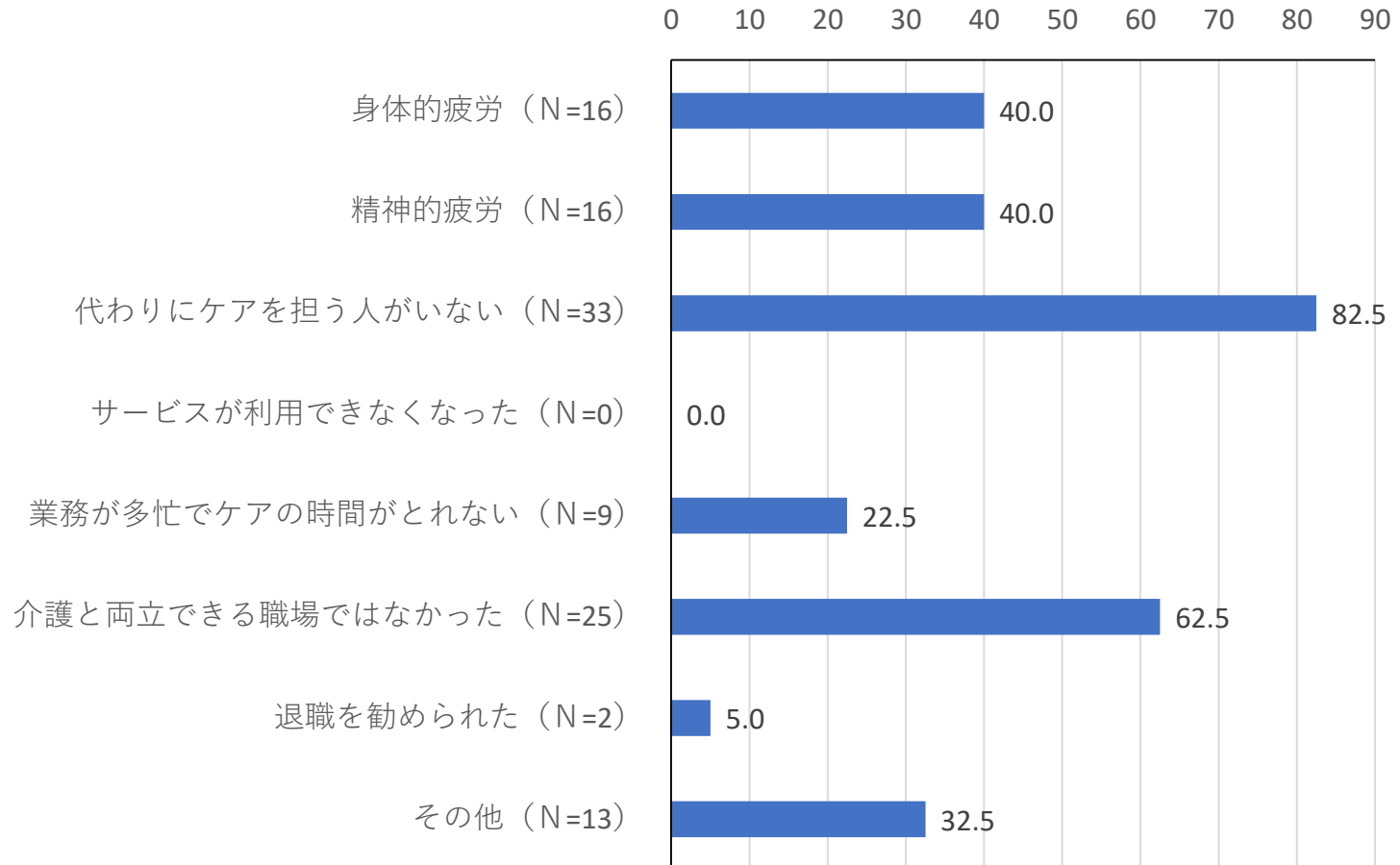
注) 本集計は就労を続けられている方（277人）に対して行われている。

4-4 ケアを機に退職した理由

- ケアを機に退職した理由（N=40）の構成割合をみると、「代わりにケアを担う人がいない」（N=33）が82.5%で最も高く、次いで「介護と両立できる環境でなかった」（N=25）が62.5%、「身体的疲労」（N=16）が40.0%、「精神的疲労」（N=16）が40.0%の順であった。

図表4-4. 就労を続けられている理由（複数回答）

単位：%



注）本集計はケアを機に退職された方（40人）に対して行われている。

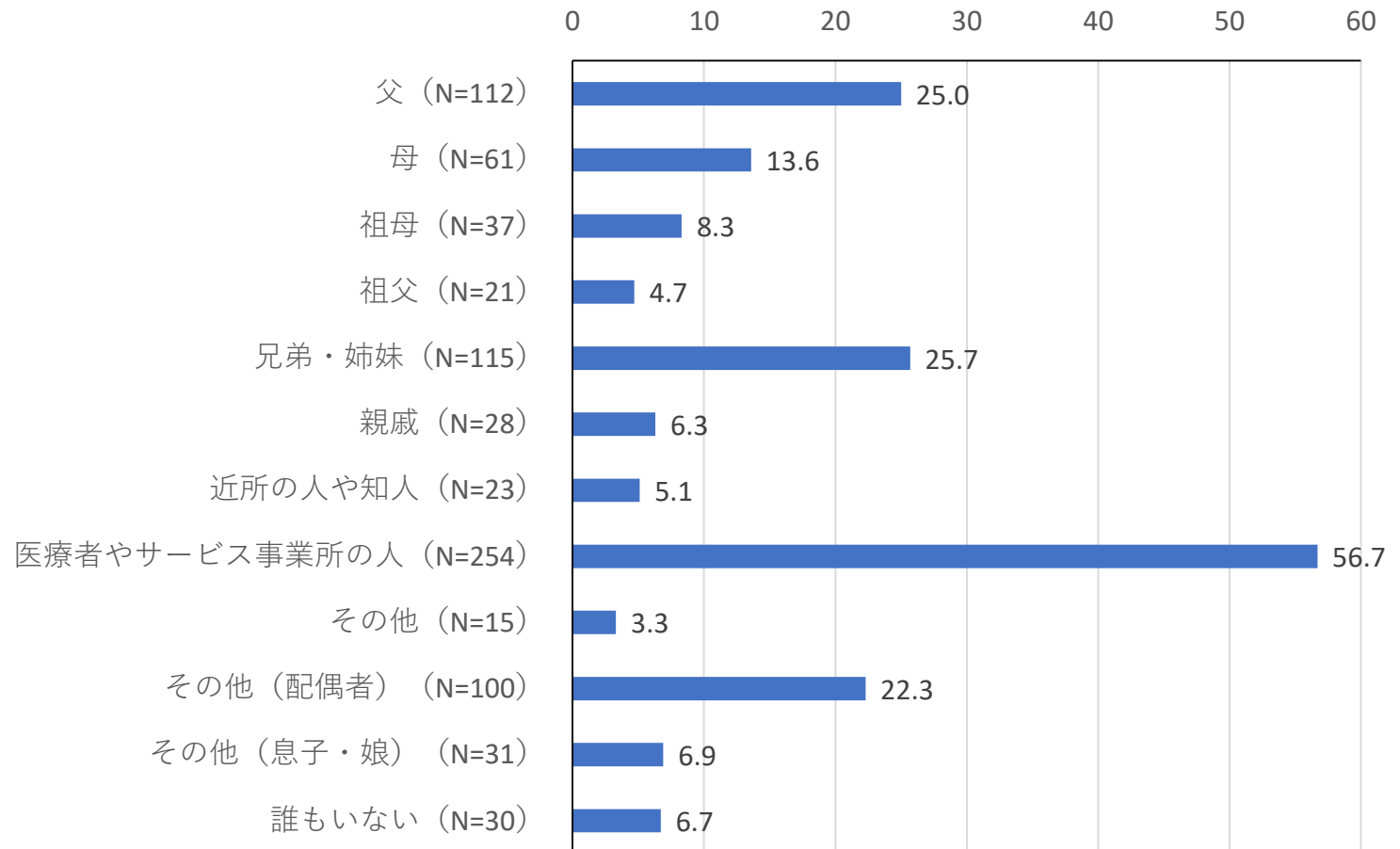
5 . ケアラーが抱える悩みと必要な支援

5-1 ケアに協力してくれる人

- ケアに協力してくれる人（N=448）をみると、「医療者やサービス事業所の人」（N=254）が56.7%で最も高く、次いで「兄弟・姉妹」（N=115）が25.7%、「父」（N=112）が25.0%の順であった。

図表5-1. ケアに協力してくれる人（複数回答）

単位：%



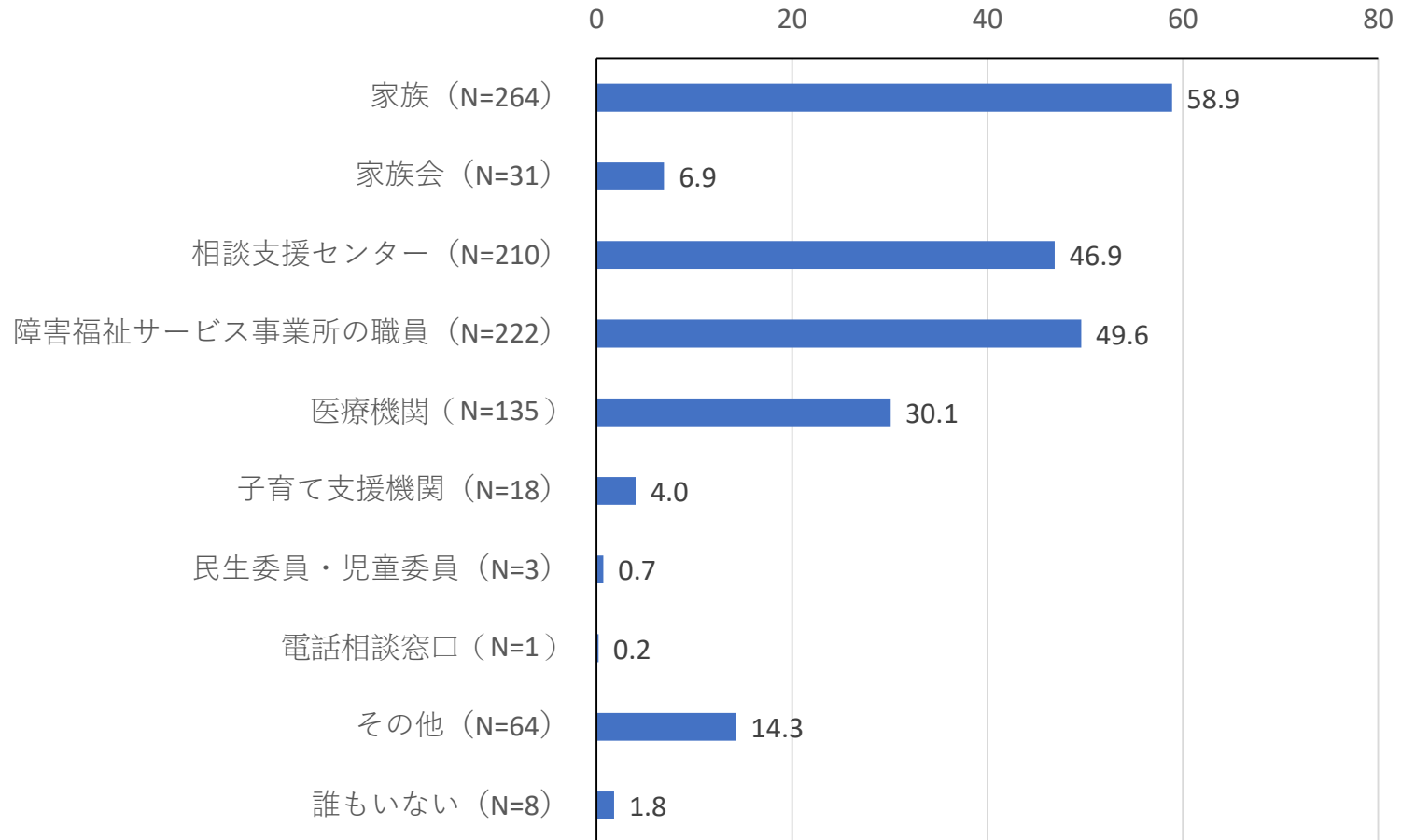
注) 本集計はケアラー本人 (448人) に対して行われている。

5-2 相談できる人や窓口

- ケアラーが相談できる人や窓口・機関（N=448）をみると、「家族」（N=264）が58.9%で最も高く、次いで「障害福祉サービス事業所の職員」（N=222）が49.6%、「相談支援センター」（N=210）が46.9%の順であった。

図表5-2. 相談できる人や窓口（複数回答）

単位：%

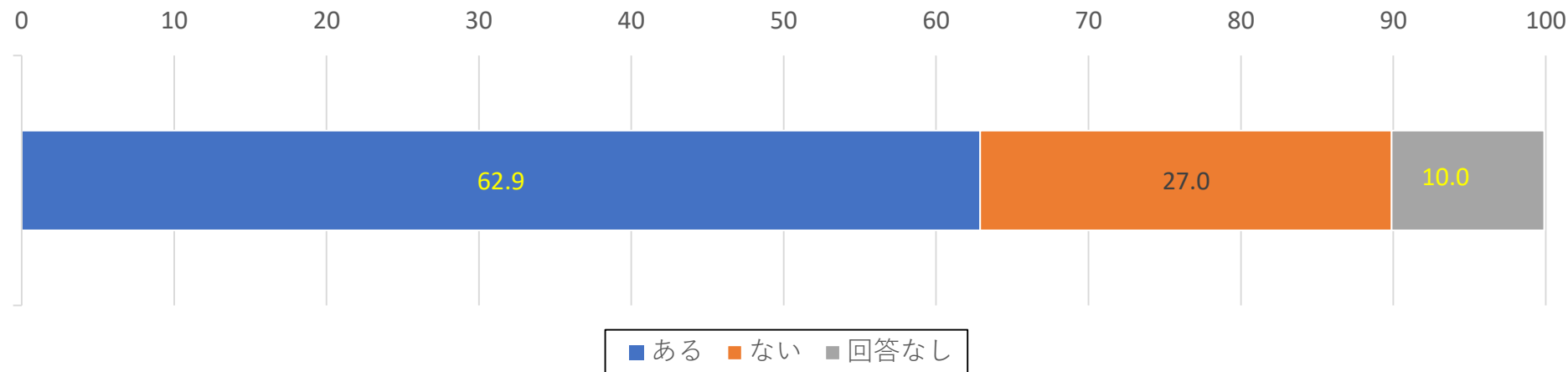


注) 本集計はケアラー本人（448人）に対して行われている。

5-3 ケアラーの悩みの有無

- ケアが原因の悩みの有無（N=448）の構成割合をみると、「ある」（N=282）62.9%、「ない」（N=121）27.0%、「回答なし」（N=45）10.0%であった。

図表5-3. ケアラーの悩みの有無の割合



	ある	ない	回答なし
ケアラー総数 (N=448)	282	121	45
割合 (%)	62.9	27.0	10.0

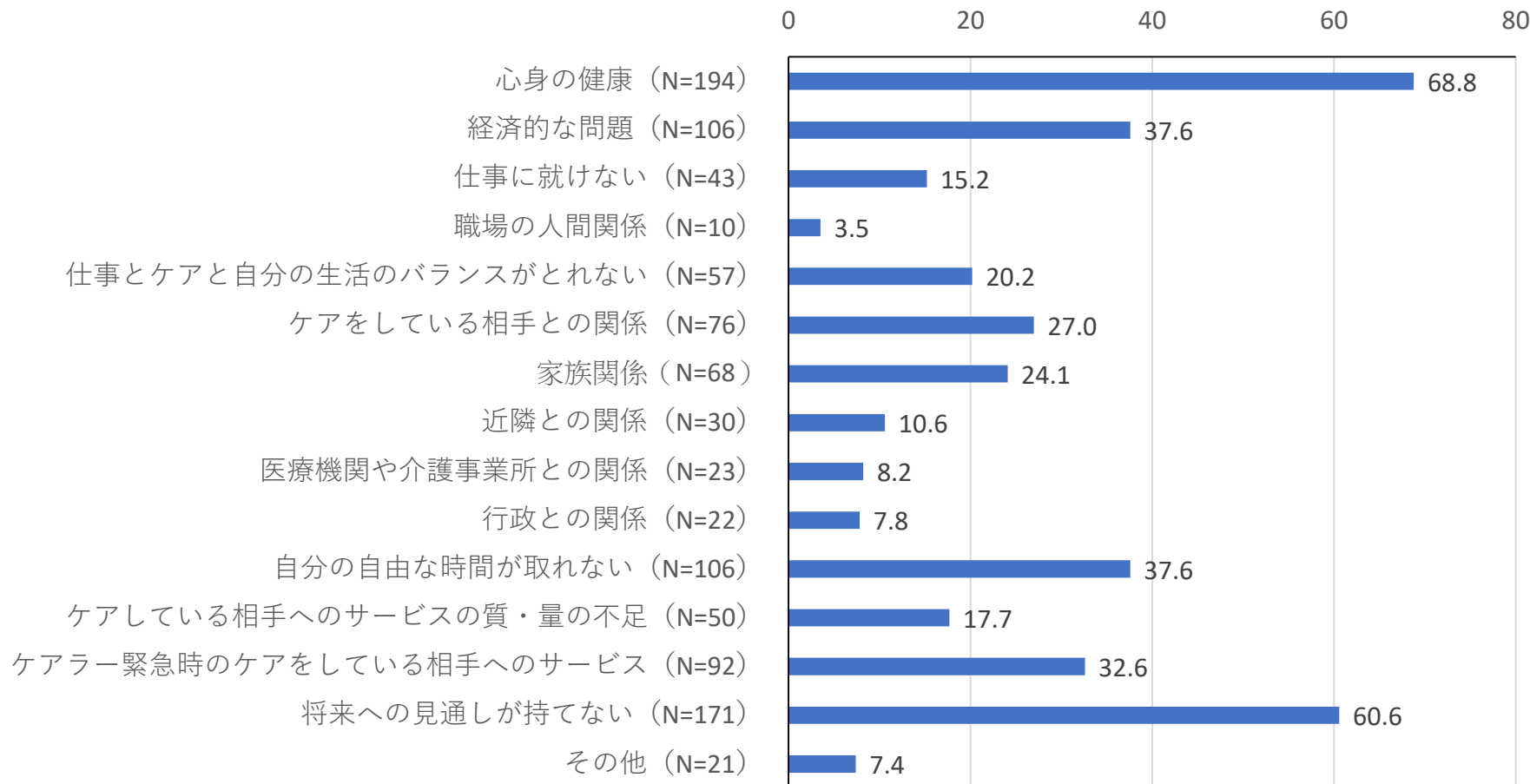
注) 本集計はケアラー本人 (448人) に対して行われている。

5-4 ケアラーの悩み

- 悩み（N=282）をみると、「心身の健康」（N=194）が68.8%で最も高く、次いで「将来への見通しが持てない」（N=171）が60.6%、「経済的な問題」（N=106）、「自分の自由な時間が取れない」（N=106）が37.6%の順であった。

図表5-4. ケアラーの悩み（複数回答）

単位：%

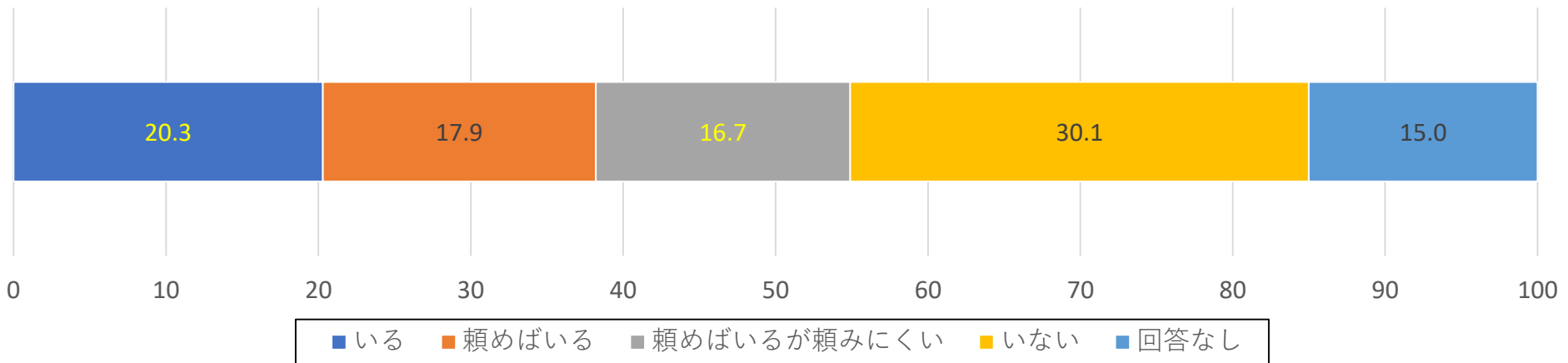


注) 本集計はケアラー本人 (282人) に対して行われている。

5 - 5 代わりにケアを担ってくれる人の有無

- 代わりにケアを担ってくれる人の有無（N=448）の構成割合をみると、「いない」（N=135）が30.1%で最も高く、次いで「いる」（N=91）が20.3%、「頼めばいる」（N=80）が17.9%の順であった。

図表5-5. 代わりにケアを担ってくれる人の有無の割合



	いる	頼めばいる	頼めばいるが頼みにくい	いない	回答なし
ケアラー総数 (N=448)	91	80	75	135	67
割合 (%)	20.3	17.9	16.7	30.1	15.0

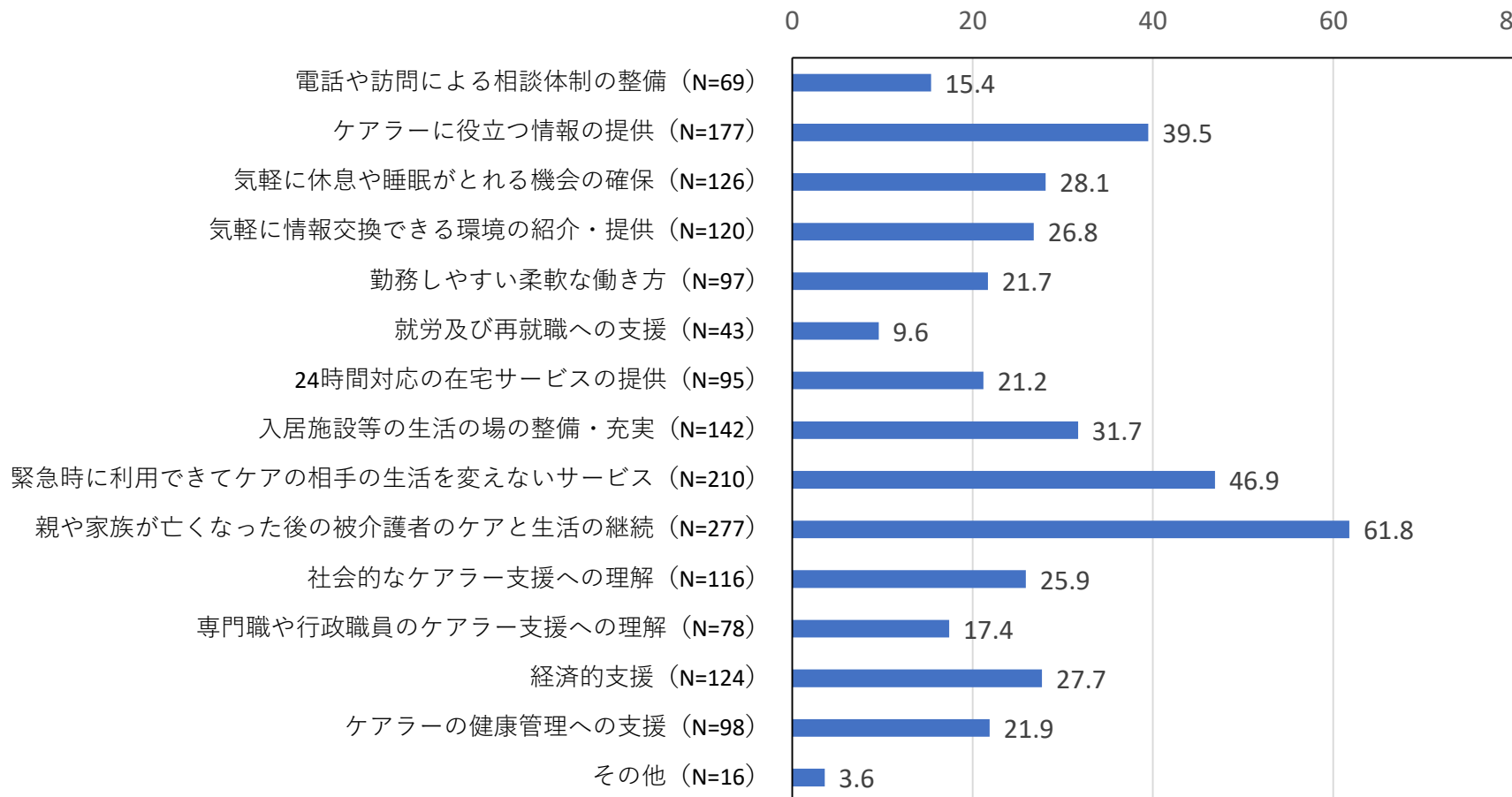
注) 本集計はケアラー本人（448人）に対して行われている。

5-6 ケアラーが必要と考える支援

- 必要と考える支援（N=448）をみると、「親家族が亡くなった後の被介護者のケアと生活の継続」（N=277）が61.8%で最も高く、次いで「緊急時に利用できてケアの相手の生活を変えないサービス」（N=210）が46.9%、「ケアラーに役立つ情報の提供」（N=177）が39.5%、「入居施設等の生活の場の整備・充実」（N=142）が31.7%の順であった。

図表5-6. ケアラーが必要と考える支援（複数回答）

単位：%



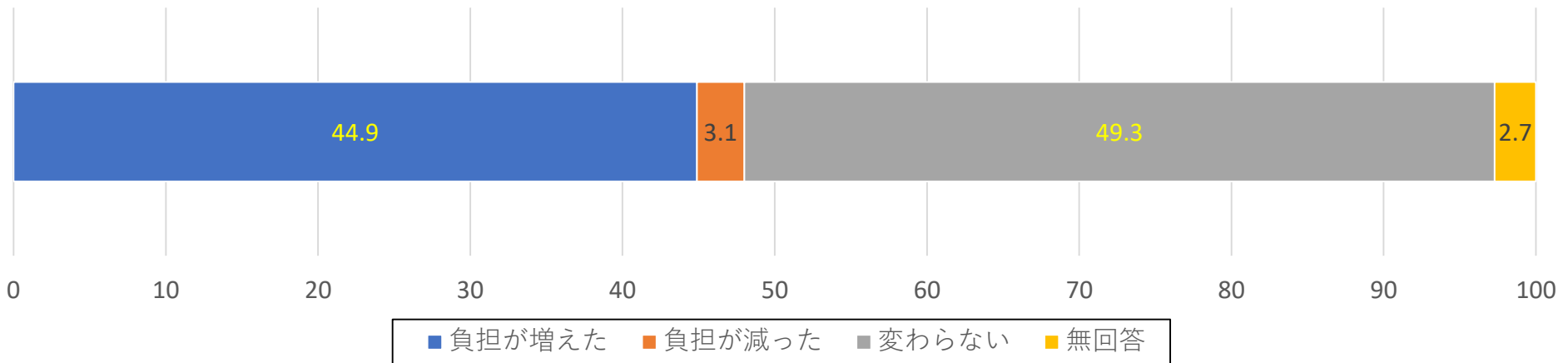
注) 本集計はケアラー本人 (448人) に対して行われている。

6 . その他

6-1 新型コロナウイルスの影響

- 新型コロナウイルスの影響（N=448）の構成割合をみると、「変わらない」（N=221）が49.3%で最も高く、次いで「負担が増えた」（N=201）が44.9%、「負担が減った」（N=14）が3.1%の順であった。

図表6-1. 新型コロナウイルスの影響の割合



	負担が増えた	負担が減った	変わらない	回答なし
ケアラー総数 (N=448)	201	14	221	12
割合 (%)	44.9	3.1	49.3	2.7

注) 本集計はケアラー本人 (448人) に対して行われている。

6-2 悩み、行政や関係機関への要望、新型コロナウイルスの影響で特に困ったこと（自由意見）

- ケアラーにとっての悩み、行政や関係機関への要望、新型コロナウイルスの影響で特に困ったことについて、主な意見は以下のとおりであった。

- 家族会に所属しております。ケアラー自身の高齢化も進んでおり、自宅でのケアが大変になりつつある中、グループホーム等、安心して話せる場を増やして頂きたいと思っております。
- 障害のある兄弟姉妹の悩みや話せる場があるといいと思います。気軽にオープンに相談できるネットワークを広げてほしいです。
- 障害の程度、等級等の区別に関係なく、被介護者の近い将来や、ケアラーが亡くなった後の事など気軽に相談が出来る、窓口があったら、ケアラーの心の支えになります。
- 発達障害の子が親子で周りを気にせずのびのび遊べるプールや室内遊具場があれば嬉しいです。
- 親亡き後の子どものことが一番の悩みです。重度の知的障がい者用のグループホームを作ってください。また、その施設がしっかり運営できるように金銭的援助をお願いします。
- 親なき後も、本人が楽しく生きて行ける世の中であってほしいと願います。
- 新型コロナウイルスの影響で公共施設がしまり、外出時に使用できる多目的トイレが少なくて困りました。公共施設以外にも多目的トイレが増えると助かります。
- 制度、仕組の情報について、伝え方も重要だと思いますが受け取りやすい環境を作ってもらえたらなと思っています。困っている人(家族)が「困っています」と言える、言いやすい環境になるといいなと思います。
- 市の体育館なども健常者を対象としたジムの器具ばかりで、障害者が気軽に身体を動かせる(ゲームなどを利用した)器具が無い。従ってケアする側はただひたすら散歩するぐらいしかない。
- 家族の問題を、なかなか外部へ言いにくい状況。「家族がいるなら、家族が見るべき」といったイメージを強く感じ、負担に感じている。
- 行政と連携した相談機関によって、ケアラーに対する個別支援計画が作成され、ケアラー自身が安心して休養でき、生活の見通しが持てるような支援を要望します。